



1日1円保険 (新潟県交通災害共済組合) にあなたも交通事故にあわないのがなによりですが。

* 1日1円保険とは…安い掛金で助け合い

2月上旬に各家庭に申込用紙を配布します

1日1円保険とは新潟県交通災害共済組合の事業で、安い掛金で多くの人を交通事故から助けよう、と昭和43年に発足し、今年で19年目になります。黒埼町の加入者は昨年4月で15,711人で加入率は69.6%と町民10人に7人が入っています。現在の加入者の期限は3月31日で切れますので、ぜひ継続手続きをしてください。また、加入していない人は家族全員で加入することをお勧めします。

掛金は1人年間350円で、見舞金は2万円から100万円まで9段階に分かれています。昨年12月31日現在で掛金の総額は550万円で見舞金を527万円支払いました。また、加入されると1人につき30円が所属自治会に支払われ、地域のためにも役立ちます。

▶申し込み…2月上旬に各家庭に申込用紙を配布します。

▶問い合わせ…役場総務課交通安全対策室 ☎377-3101

* お支払いする場合は

歩いていて車にはねられたり、ひかれたりした事故や自動車、バイク、自転車、荷車など運行中の車両が衝突したり、墜落したり、転覆したり、接触したりした人身事故によって死亡、または傷害を受けた場合、見舞金が支払われます。

(ただし、日本国内における事故が対象です)

※民間保険、他共済と重複する場合でも、見舞金は支払われます。

* 見舞金の請求は

会員で万一事故にあわれたら、次の書類を添えて請求してください。

ア、会員証 イ、共済見舞金請求証 ウ、交通事故証明書 エ、医師の診断書(組合所定の用紙使用) 他

※詳しいことは役場総務課交通安全対策室まで。

* 加入状況…10人に7人は入っています

昨年の加入者は15,711人(22,580人中)、で加入率は69.6%です。(4月30日現在)。前年より244人増えています。下表は自治会別の加入率です。なお、県平均加入率は71.1%、郡は86.5%です。

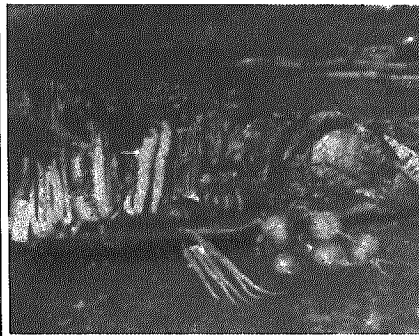
自治会別加入状況(62年)

自治会名	人口	加入者数	加入率	順位	自治会名	人口	加入者数	加入率	順位
金巻	320	296	92.5		寺地下	374	230	51.5	
興野一区	395	279	70.6		寺地団地	613	316	61.5	
興野二区	469	362	77.2		善久東	643	409	63.6	
興野三区	417	285	68.3		善久中	622	432	69.5	
興野四区	353	252	71.4		善久西	371	254	68.5	
中学通り	836	584	69.9		上山田1	626	318	50.8	
新町	376	298	79.3		上山田2	594	403	67.8	
諏訪町	610	488	80.0		上山田3	478	306	64.0	
二之町	175	139	79.4		上山田4	328	168	51.2	
五区	287	251	87.5		下山田	245	171	69.8	
仲町	152	115	75.7		山田堤付(13人上山田4に含む)	304	274	90.1	
七区	266	219	82.3		板井一	226	206	91.1	
八区	458	416	90.8		板井二	211	179	84.8	
新田町	504	349	69.2		板井三	411	360	87.6	
栄町	156	106	67.9		板井四	211	179	84.8	
鳥原本村	860	644	74.9		木場川前	349	253	72.5	
鳥原大明	876	460	52.5		木場上組	506	397	78.5	
蓮方団地	455	338	74.3		木場下組	517	339	65.6	
川原	205	147	71.7		木場八割	539	296	54.9	
鳥原新地	445	331	74.4		木場新田	509	315	61.9	
柳作	798	506	63.4		黒鳥一	257	231	89.9	
焼酎団地	498	197	39.6		黒鳥二	158	153	96.8	2
小平方	300	235	78.3		黒鳥三	145	131	90.3	
鳥原新田	361	228	63.2		黒鳥四	257	231	89.9	
立仏1	432	228	52.8		黒鳥五	195	173	88.7	
立仏2	331	252	76.1		緒立	117	117	100.0	1
立仏3	330	166	50.3		北場	245	235	95.9	3
寺地本村	618	345	55.8						
寺地中	457	298	65.2		合計	22,580	15,711	69.6	

* 見舞金…2万円から100万円まで

見舞金は下表のとおり1等級(死亡100万円)から9等級(治療日数7日以上)まであり、昨年は527万円(件数68件)支払いました。

等級	災害の程度	金額(万円)	町民数
1	死亡した場合	100	2
2	自賠責施行令別表の等級区分の1級各号に掲げる傷害の場合	70	0
3	治療を要した期間が6月をこえ、かつ、入院30日以上を含む実治療日数90日以上のもの	15	5
4	治療を要した期間が5月をこえ、かつ、入院21日以上を含む実治療日数75日以上のもの	12	1
5	治療を要した期間が3月をこえ、かつ、入院14日以上を含む実治療日数60日以上のもの	10	5
6	治療を要した期間が3月をこえ、かつ、入院7日以上を含む実治療日数45日以上のもの	8	1
7	治療を要した期間が2月をこえ、かつ、入院通院の実治療日数30日以上のもの	6	11
8	治療を要した期間が1月をこえ、かつ、入院通院の実治療日数15日以上のもの	4	15
9	入院通院の実治療日数7日以上のもの	2	28



満洲での生活

昭和12年6月拓務省拓務局条行の「第六次満洲農業移民本隊募集」パンフレット(斉藤三代次さん所有)から。左/移民村で作った菜園。右/個人住宅。しかし斉藤さんが入居した家は下の写真のような草ぶぎの屋根だった。 ※なお、このパンフレットには「応募資格」「申込み」採用のほか、「気候」「衣食住」などの項目も載っている。たとえば気候の項には「一番暑い時期は7月末近くで、摂氏32度以上に上ることがあり、日光は強いが、空気が爽涼で、日本の夏よりは涼しく、冬は1月中旬頃の夜、摂氏零下40度位に下ることもあり、日中は晴天がよく続き、(中略)雪は降っても精々七、八寸(約20~25cm)位しか積らず、案外凍り易いのです。」とある。

● 厳しい満洲の気候
しかし、開拓者たちの暮らしては決して楽しいことばかりではなかった。北満の風土は当然、日本内地とは大きく違って、四季の気候の変化には容易になじめず、苦勞したのである。北満の夏は非常に日が長い。

朝は鶏の声で明け、昼はのどかな牛の声を聞き、緬羊、子牛のたわむれる広大な開墾地の中で、牛馬を使って夫婦共働きの農耕。まさに開拓者にとつての夢の実現といえた。

を全然使わなくても、大豆、ジャガイモ、エンバクなど、何を植えてもびっくりするほどよく出来た。これは満洲の土が、黒土がたっぷりの肥沃な土質であったためという。開拓団ではそのころから、それまで北満では見られなかった白色レグホンや乳牛のホルスタインの飼育にも取り組んだ。酪農の基盤を築き、食生活の豊かな理想郷を目指しての第一歩が踏み出されたのである。

逆には、朝の八時過ぎにならぬと明るくならず、午後三時過ぎにはもう日が暮れるので、一日の三分の二は暗い中ということになる。秋から冬の訪れも早い。九月初めにはもう霜が降り始め、九月末には霜柱の立つ日が多くなる。

雪が降らず、風も吹かないので「あまり寒さが厳しいため、雪が降らず、風も吹かないのではないか」と斉藤さんは話している。

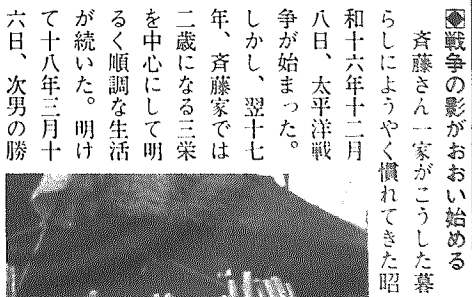
冬の夜の寒さを示すのにこんなことがある。朝、起きてみると、布団のえりの息の当たるところが霜で真っ白になっていることがよくあった。寝る前に消すオンドルの余熱が朝までもたず、朝がた、寝室の温度が零度以下になるためである。

そのころ、五福堂新潟村本部でこんな出来事が起きた。開拓団のある指導者が「開拓団は、やむなく戦場になっても日本軍が応援に来るまで維持し、犠牲者は絶対に出さない、そういう理念で対匪防衛をする。出ていって戦闘はしない。開拓は平和に畑で働いて生きるため、死ぬためではない。それを日本軍は、さも開拓団を自分らの作戦に必要な部分と思ってるらしい……」と、ふともらしたところ、五福堂に駐在していた日本軍の将校に殴られたというのである。小さな出来事ではあったが、開拓に入った人々にとっては大きな関心事であった。

十八年に入って、日本軍の戦況が不利になるにしがたが、

戦争の影がおおい始める。齊藤さん一家がこうして暮らすにようやく慣れてきた昭和十六年十二月八日、太平洋戦争が始まった。しかし、翌十七年、齊藤家では二歳になる三葉を中心にして明るく順調な生活が続いた。明けの十八年三月十六日、次男の勝が誕生した。

て、満蒙の開拓にもその厳しい情勢が身にしみて感じられるようになってきた。



● 開拓団員の召集が始まる
日本政府が「土の戦士は動員しない(兵隊として出征させない)、開拓団員は召集しない」という約束を反古にして、開拓団員を現地に召集しはじめたのである。これには満蒙の全団員が大きなショックを受けた。

しかし、この時点でまだ団員の多くは、日本が負けることは夢にも思っていなかった。当時、満洲には関東軍百万の精銳が厳然とらみをきかせ、昭和十六年四月には日ソ不可侵条約が締結され、ソ連軍が満洲に攻め入るなどということは絶対ありえないと思っていたのである。

五福堂新潟村の団員の召集は十八年半ばから始まり、十九年の六月には斉藤三代次さんにも、とうとう召集令状が来た。

入植した年(昭和十五年)は作物の出来は悪かったが、二年目に入ってから

黒埼町の今昔

町史編さん課

満洲国移民の軌跡(三)

厳しくも夢多き開拓生活にも戦争の影が忍び寄る

二年目に入ってから

は作物の出来は悪かったが、二年目に入ってから